

社会福祉法人中央会 令和 6 年度事業報告

【施設方針】

施設理念 「家のぬくもり、家族のつながり、地域のつながりのある暮らし」
の実現に取り組む

1. 令和 6 年度介護報酬改定

(1) 令和 6 年度は特養の基本報酬が 2.8%、シヨーステイが 1%、その他は 0.1～0.5%の引き上げ、居住費基準額が 60 円引き上げとなった。また、加算については協力医療機関との連携加算（特別養護老人ホーム、グループホーム）の取得、小規模多機能における地域共生社会の実現に向けた取り組みを実施し総合マネジメント体制強化加算 1200 単位（12204 円／月／1 人）を取得するに至った。介護ロボットや ICT 等のテクノロジーの活用促進として生産性向上加算については、今後取得に向け活動を開始している。その他にも入退居時情報提供加算（特別養護老人ホーム、グループホーム）や栄養連携加算（特別養護老人ホーム）を申請し、介護報酬を取得したことで、介護保険事業収入は昨年度より増額となった。

(2) 光熱費、水道費においては昨年に引き続き高騰は継続しており、節電対策だけでは対応しきれていない。今年度も金沢市から福祉施設光熱費物価高騰特別対策費（164 万円）、食材料費高騰特別対策費（79 万円）として助成金が 3 月に入金された。

給食委託会社メフォスの委託費は昨年度と変わりはないが、コメ価格高騰に伴い 10 月より米代金の値上げがあった。（約 5 万円／月）令和 7 年 4 月から更なる値上げが確定している。

2. 感染対策

コロナウイルス感染やインフルエンザウイルス感染は高齢者施設において重篤化は深刻な問題であり、感染予防として看護師を中心とした感染委員のラウンドを継続している。また、「感染者及び濃厚接触者聞き取りシート」を活用し、情報収集を行い、感染予防に向けてのマニュアルを作成し対応している。この 3 月にグループホーム式番館において職員による持ち込みが原因で入居者様数名がコロナ感染したが、クラスターまでには至らなかった。

3. ウイズコロナの施設運営

面会については各事業所で時間と人数制限を設け、自室での面会を開始した。昨年秋の特別養護老人ホームの家族懇親会では、ユニットに入っただき食事風景を見て頂いた。ご家族からは入居者様と一緒に食事がしたかったと要望があり、今回はそれも踏まえて検討したい。施設内レクリエーションや行事は季節に応じた内容で開催し、ドライブなどの外出レクリエーションも楽しまれた。

地域との交流は今年の1月に、米泉小学校へ出向き質問コーナーを設け、4年生を対象とした施設紹介を行った。また、3月には石川県立金沢伏見高校に出向き、「若者向けライフプランセミナー」を実施した。ボランティア交流については毎月米泉ボランティア会の方々が訪問され、利用者様と作品づくりや季節行事の手伝いをして頂いた。

4. 職員育成

令和6年度は「ケアプランに連動した介護記録」について学んだ。外部講師に参加していただき、各事業所の記録委員が中心となって取り組んだ。結果、入居者様の個別計画書を作成し、統一した介護を提供することが出来た。今まではケアマネジャーに依存している部分もあったが、自分で計画を立てることで、より一層入居者様に寄り添った介護が行え、自信に繋がった。

管理者の育成については特別養護老人ホームの主任とリーダーにはそれぞれユニットケア研修を受講し、管理者としての役割を学ぶ機会となった。グループホーム式番館においては将来の管理者育成として、現リーダーに認知症対応型サービス管理者研修を受講してもらった。また、小規模多機能の職員体制を再構築する為に、同研修を他1名に受講してもらった。

5. 職員の採用と定着

令和6年度は新卒者が5名入職され、現在も安定して働いて頂いている。しかし、退職者や新たに2名産休に入るなど、結果的に派遣社員が13名迄増える結果となった。中途採用者に5名（そのうち1名は夜勤専従）が入職され、4名は安定して働いて頂いている。現在の雇用者数は106名で平均年齢は依然として40代後半であり、数名が正規社員から非常勤社員に変更しながらも働いて頂いている。令和7年の秋には1名が育休復帰を予定している。

6. 経営基盤の強化と確立

(1) 令和6年度目標達成状況

特別養護老人ホーム、ショートステイ、グループホーム、グループホーム式番館、デイサービスは令和6年度稼働率目標を達成する。

【令和 6 年度目標稼働率】

事業所	令和 6 年度目標	結果
特養（定員 29 名）	97%	98.9%
ショートステイ（定員 20 名）	98%	98.6%
グループホーム（定員 18 名）	97%	97.7%
グループホーム式番館（定員 18 名）	97%	98.5%
小規模多機能（登録 25 名）	88%	79.0%
デイサービス（定員 35 名）	76%	76.5%

小規模多機能は目標達成とはいかず、入院や施設入所が重なり、一時期稼働率が 64%まで落ち込んだが、3 月には新規利用者の獲得に努め、稼働率を 80%まで回復する結果となった。しかし、目標達成には至らなかった。

(2) 人件費について

前年度に比べ、人件費率は 65.9%と昨年度より減少したが、非常職員給与と派遣職員費が増額となった。特にデイサービスにおいては派遣を複数名採用したことで、昨年度より増額となった。

令和 6 年度は 5 名新規採用となったが、退職者や育休復帰予定者の復帰延長や新たに産休入りの職員等で派遣職員費支出が 950 万円増加した。10 月に最低賃金の値上げと、介護職の時給見直し（約 5%）を図った。また、10 月から社会保険加入条件が週 20 時間以上に変更となり、法定福利費が約 9 万／月増加した。介護保険改定に伴い新加算（介護職員等处遇改善加算Ⅰ）を取得することで、正社員 4000 円、パート（週 20 時間以上）2000 円の賃金改善を図った。

(3) 事業費について

前年度に比べ 241 万円の増額となった。令和 6 年度も光熱費の高騰は続いており、約 122 万円の増額となった。金沢市より福祉施設光熱費物価高騰特別対策費（164 万円）、福祉施設食材料費高騰特別対策費（78 万円）として助成金が支給された。

(4) 事務費について

前年度に比べ 476 万円の増額となった。原因として給食委託会社メフォスより、コメ価格高騰に伴い月約 5 万円の値上げがあった。また、令和 6 年度の能登地震復旧工事や開設当時から使用している電化製品等の買い替えが重なった。

(5) 資産管理について

今年度はエアコンの修繕に 14 台、その他にも各事業所で不都合が相次ぎ、直接利用者様に迷惑がかかるため 8 台を買い替えた。今後も順次買い替えを予定している。パソコンも開設当初から使用していた 15 台と管理栄養士が立てる献立用に 1 台の合計 16 台を新しく購入した。送迎車ではダイハツからタントが贈与され、諸経費として約 37 万円支払った。

(6) 財務管理

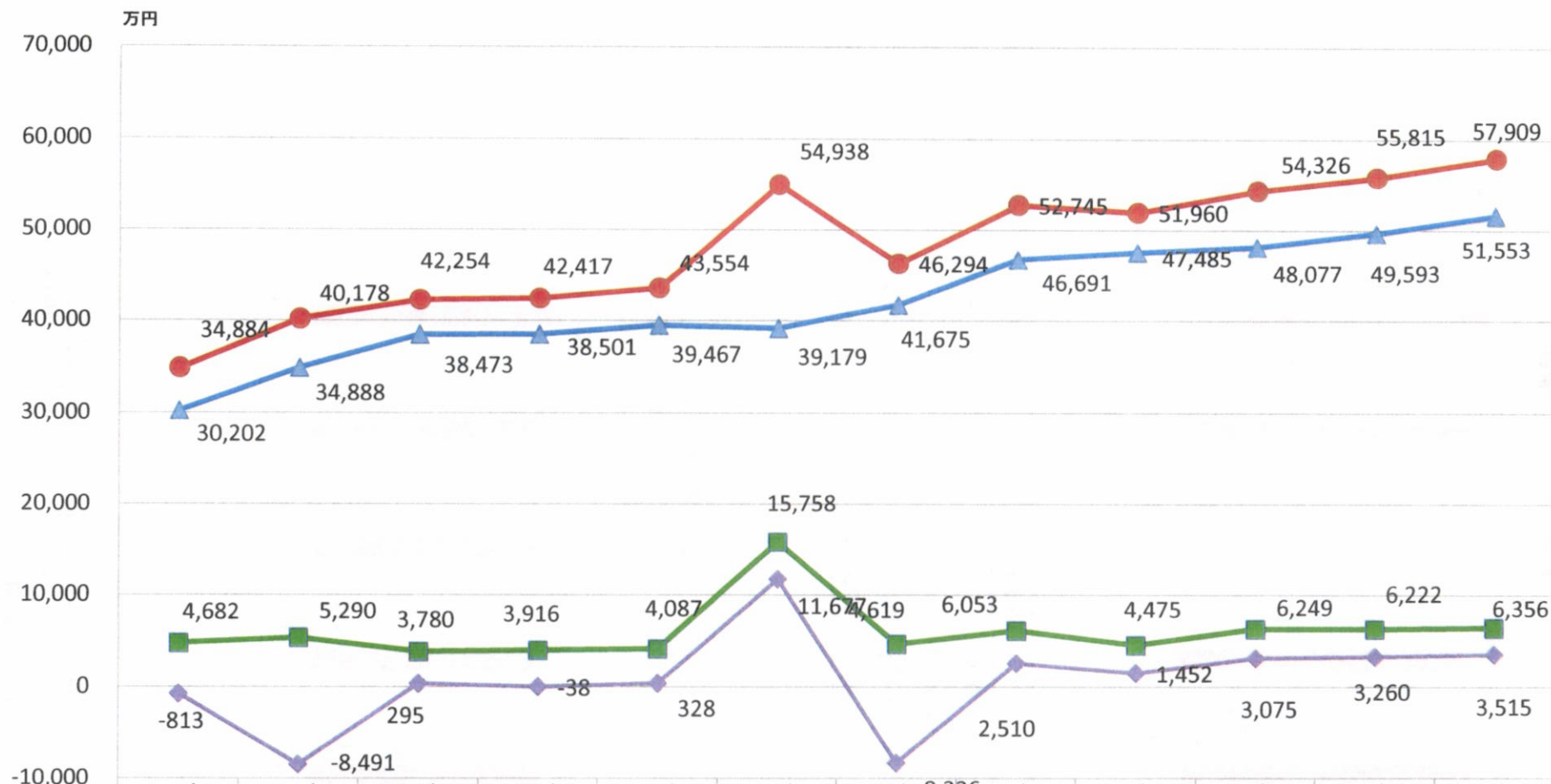
令和 6 年には返済月の関係で前年度の 3 月分が繰り越しとなった為、約 2500 万円（利息分含む）を返済した。

その他として、火災保険の 5 年払いに約 917 万円支払った。

(7) 資金収支活動の推移と報告（全体・事業所別）

次ページグラフ参照

(7) 資金収支活動の推移と報告（全体）



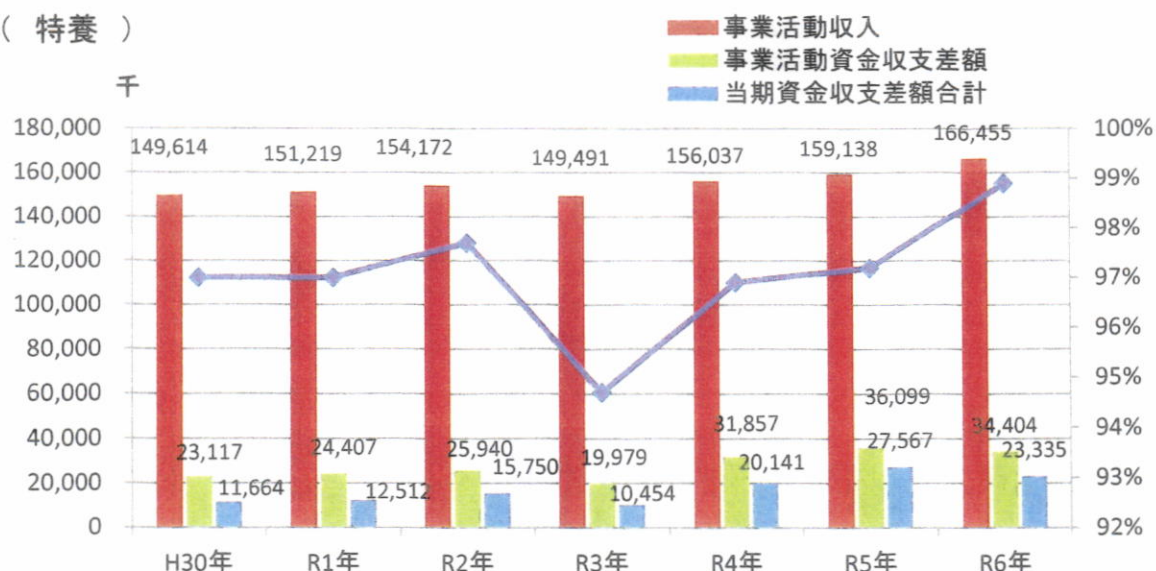
	H25年	H26年	H27年	H28年	H29年	H30年	R1年	R2年	R3年	R4年	R5年	R6年
● 事業活動収入	348,840,442	401,776,992	422,535,137	424,168,645	435,544,661	549,375,014	462,943,603	527,445,984	519,599,881	543,256,423	558,145,058	579,087,438
▲ 事業活動支出	302,015,685	348,877,098	384,733,677	385,008,441	394,673,878	391,794,951	416,749,422	466,914,085	474,853,302	480,768,613	495,929,088	515,531,493
■ 事業活動資金収支差額	46,824,757	52,899,894	37,801,460	39,160,204	40,870,783	157,580,063	46,194,181	60,531,899	44,746,579	62,487,810	62,215,970	63,555,945
◆ 当期資金収支差額合計	-8,134,895	-84,913,222	2,954,170	-380,956	3,280,692	116,765,149	-83,262,745	25,096,793	14,524,273	30,750,344	32,599,906	35,148,275

令和6年度収支報告

- ・事業活動収入は 579,087,438円で前年度より 20,942,380円増収であり、特に小規模多機能は目標の稼働率には達しなかったが、昨年度より 実績数の増加と介護保険改正による新規加算の算定、から介護保険料が前年度より増額となった。
- ・事業活動支出は 515,531,493円であり、19,602,405円支出増だった。
人件費率65.9%で、前年度の人件費率67.1%より、-1.2%だった。各事業所での退職が重なり、補充が間に合わなかったことも理由と考える。
- ・事業活動資金収支差額は 63,555,945円で前年度より 1,339,975円増収だった。
- ・当期資金収支差額合計は 35,148,275円で、前年度より 2,548,369円増収だった。

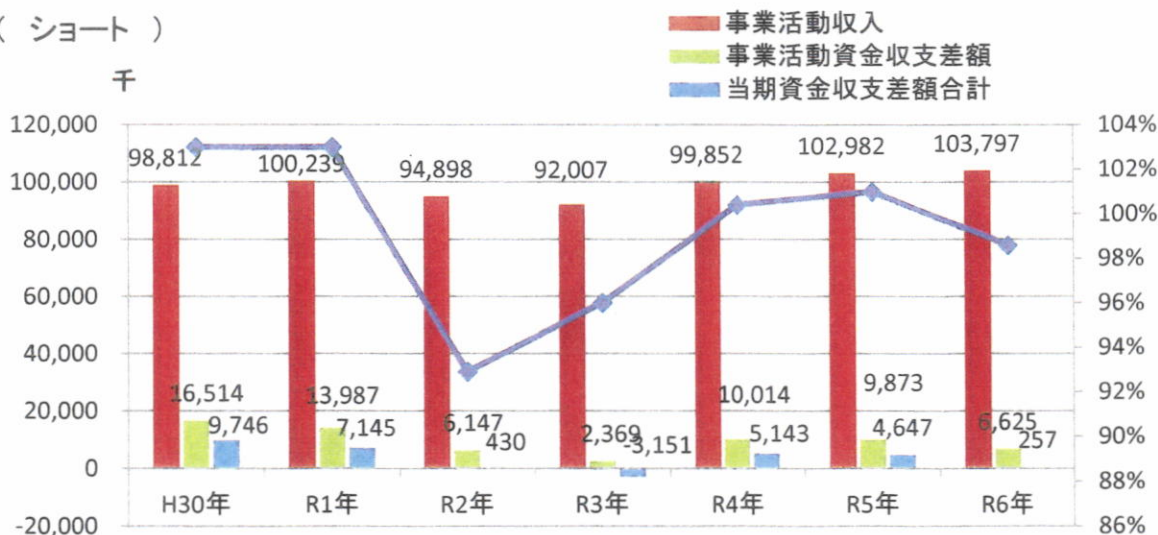
(7) 資金収支活動の推移と報告(事業所別)

(特 養)



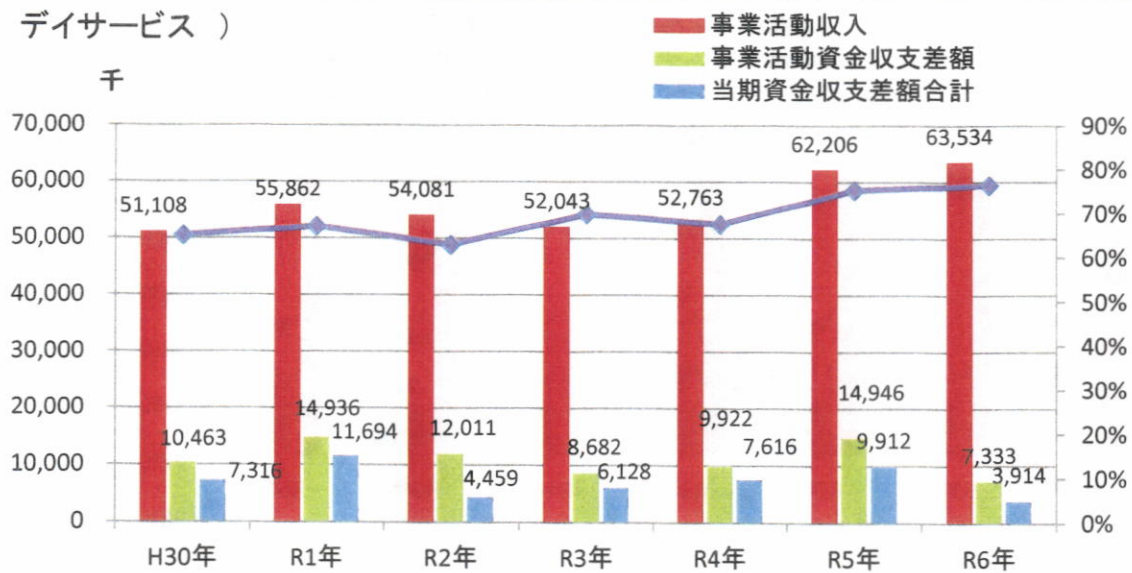
	H30年	R1年	R2年	R3年	R4年	R5年	R6年
稼働率%	97%	97%	98%	94.7%	96.9%	97.2%	98.90%
事業活動収入	149,614,174	151,218,562	154,171,854	149,491,466	156,037,485	159,137,509	166,454,754
事業活動資金収支差額	23,116,524	24,407,410	25,940,125	19,979,405	31,856,616	36,098,832	34,403,563
当期資金収支差額合計	11,663,563	12,512,460	15,750,359	10,453,614	20,141,365	27,567,303	23,334,867

(ショート)



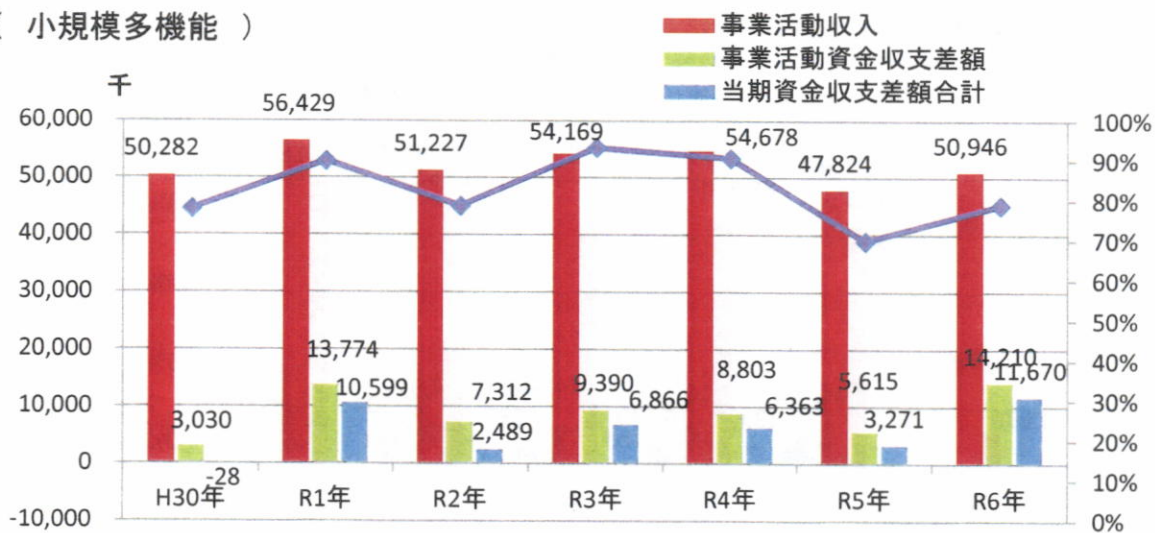
	H30年	R1年	R2年	R3年	R4年	R5年	R6年
稼働率%	103%	103%	92.9%	96%	100.4%	101.0%	98.6%
事業活動収入	98,811,788	100,239,468	94,897,901	92,007,320	99,851,981	102,981,993	103,796,957
事業活動資金収支差額	16,513,535	13,986,718	6,146,597	2,368,968	10,014,318	9,873,145	6,624,870
当期資金収支差額合計	9,746,459	7,145,253	429,647	-3,150,757	5,143,343	4,646,738	257,278

(デイサービス)



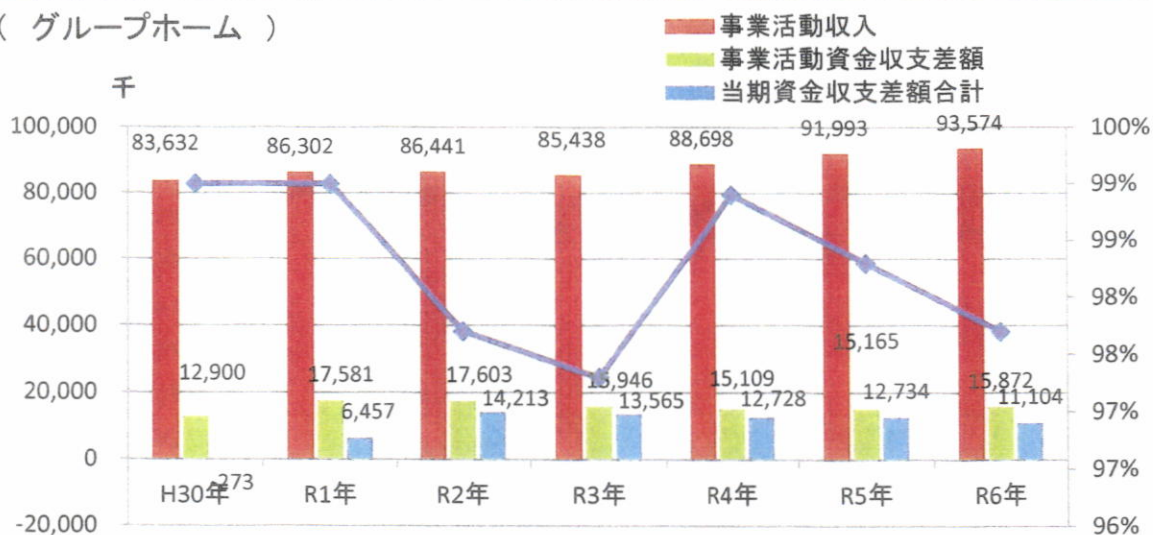
	H30年	R1年	R2年	R3年	R4年	R5年	R6年
稼働率%	65%	67%	62.9%	69.8%	67.6%	75.3%	76.5%
事業活動収入	51,107,965	55,861,562	54,080,553	52,042,696	52,763,255	62,205,638	63,534,252
事業活動資金収支差額	10,462,771	14,935,702	12,010,639	8,681,872	9,921,840	14,946,469	7,332,584
当期資金収支差額合計	7,315,873	11,693,720	4,458,850	6,128,198	7,615,966	9,912,426	3,914,426

(小規模多機能)



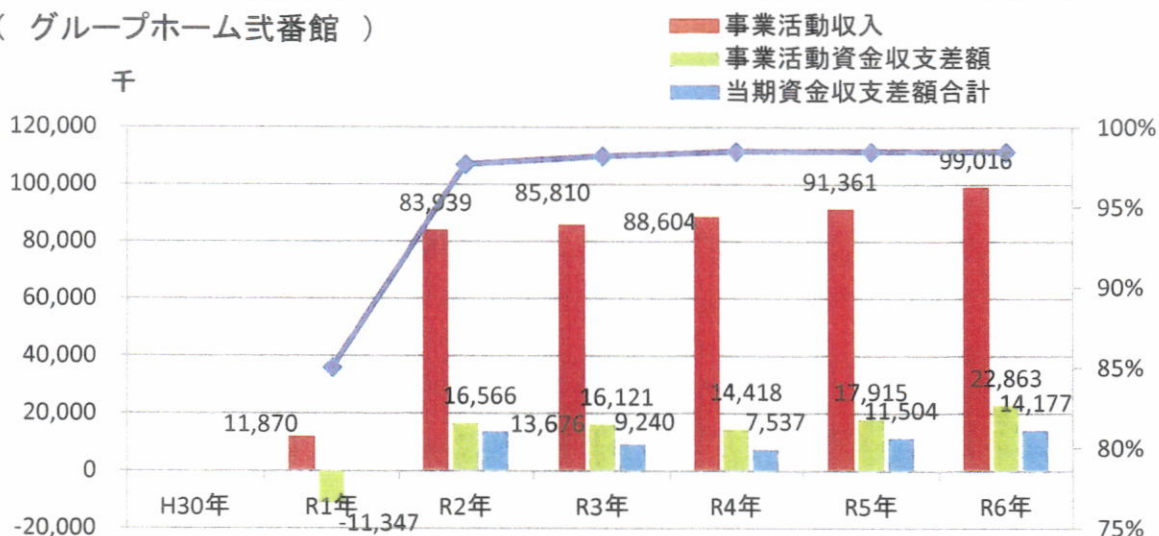
	H30年	R1年	R2年	R3年	R4年	R5年	R6年
稼働率%	78%	90%	78.7%	93.3%	91%	70%	79%
事業活動収入	50,281,517	56,428,762	51,227,482	54,169,437	54,677,804	47,824,494	50,945,537
事業活動資金収支差額	3,030,001	13,773,740	7,312,360	9,389,639	8,802,867	5,614,738	14,209,769
当期資金収支差額合計	-28,298	10,598,637	2,489,410	6,865,714	6,362,642	3,271,027	11,670,276

(グループホーム)



	H30年	R1年	R2年	R3年	R4年	R5年	R6年
稼働率%	99%	99%	97.7%	97.3%	98.9%	98.3%	97.7%
事業活動収入	83,632,059	86,301,969	86,441,320	85,438,343	88,697,737	91,993,364	93,573,889
事業活動資金収支差額	12,899,542	17,580,834	17,603,004	15,946,463	15,108,939	15,165,074	15,872,108
当期資金収支差額合計	-272,542	6,457,335	14,213,142	13,565,271	12,727,747	12,734,450	11,103,545

(グループホーム式番館)



	H30年	R1年	R2年	R3年	R4年	R5年	R6年
稼働率%		85%	97.7%	98.2%	98.5%	98.5%	98.5%
事業活動収入		11,869,992	83,939,446	85,810,492	88,604,294	91,361,183	99,015,994
事業活動資金収支差額		-11,347,435	16,566,144	16,121,175	14,417,700	17,914,813	22,863,424
当期資金収支差額合計		-111,834,526	13,676,282	9,239,983	7,536,508	11,503,919	14,176,732

7. 令和6年度の事業所評価

特別養護老人ホーム

①ユニットケアの理解を深め、向上心をもってスキルアップを目指す

- ユニットケアを意識して入居者様ひとりひとりの生活リズムに合わせるケアを実施できた。さらに向上心をもってスキルアップしていきたい
- 研修に参加して自分の考えや行動を振り返り、目指す介護福祉士像を明確にできた
- ユニットケアについて理解できていないまま進んでいった。もっと話し合うべきであったと思う

②入居者様ひとりひとりに寄り添い、心のこもった個別ケアを積極的におこなう

- ケアの個別性を高める事は出来たが、全体的に業務優先の雰囲気が見られることがあるので改善していきたい
- 入居者様との会話や声掛けを大切に日々のケアを行えた。心のこもったケアに取り組めたと思う。個々の入居者様に何をしたらよいか考えて行動できた
- 入居者様の思いに寄り添えていない時があった
- 入居者様に笑顔でいてもらえるよう意識して介助をおこなえた
- 経管栄養の方など、あまり居室から出る機会の少ない入居者様にもっと関わりを持っていけばよかった 意思を伝えられない方にもっと関わる必要があった

③重度化防止・自立支援のために、リハビリ・栄養管理・口腔管理を一体的に実施する

- 残存機能を活かせるよう、なるべく自分でできることはやっていただくよう心掛けた 過剰な介助にならないよう意識し、他職種と連携し対応できた。栄養管理については多職種で連携し、個人に寄り添った対応ができていた。食事の提供方法を見直し、自己決定を促すことができた
- 個別リハの実施について人によって取り組みに差があった
- 毎日の口腔ケアにしっかり取り組めたが、リハビリについてはもっと積極的に実施するべきだった 重度化防止ができたか自信がない

ショーステイ

①心地よい職員の対応、安心・安全・綺麗な居心地のよい環境作りを行う

- 利用者様に安心して生活して頂ける様、居心地のよい環境作りに心がけ、努める事が出来た
- 利用者様に安心して頂ける様に声のトーン、表情に気をつけ接遇を行った
- こまめに整理整頓を心掛けた
- 面会も出来るようになり、昨年より綺麗な居心地の良い環境作りを心掛けした

- 情報からだけではなく利用者様とのコミュニケーションを大切にし、その方、その方にあったケアや環境作りを見出せる様努めた。（日々変化に対応出来るようにした）
- 自分自身は気をつけたが、他職員の居室環境作りに関して勘違いされている事があっても指導することが出来なかった。
- 業務に追われ出来ないことがあった。
- 業務が忙しいと接遇の乱れが出てしまった。
- 新規利用の情報の確認不足より上手く対応出来ないことがあった。
- 環境作りを行う

②多職種連携「報・連・相」の徹底を行い、統一された質の良いサービスの提供を行なう

- 気になる事があれば報告や相談をし、統一したサービスが出来る様努めた
- 介護士、相談員、看護師との報連相は速やかに出来、利用者様の状況にあった対応が出来た
- 多職種連携での決まり事や早急に伝えなくてはならない事、質問等施設長や事務に報告していく事を意識した
- 申し送りやノートを活用し報連相の徹底を行えた
- 常に報連相を意識し行えたが質のよいサービスになったかは分からない
- 職員間の報連相を忘れる事があった
- 報連相が上手くいかず、ケア方法の変更等把握にタイムラグがある様に思えた。申し送りの確認の徹底をしていきたい
- 連携が取れていない時もあった。ミーティングでよく話し合い、統一出来たことも多々あった
- 日々変化するため、利用者様のケアも異なり統一された質の良いサービスが難しい時があった

③施設で統一された記録入力 of 定着（ケアプラン、ほのぼのの活用）を行なう

- 統一した記録入力に努めることが出来た
- ガイドラインがあった為、問題なく記録入力出来た
- 始めのうちは記録項目で迷ったりする事があったが、少しずつ理解出来ている
- 月末のモニタリングの際、ほのぼの、ケアプランの活用がなかなか出来ていない
- 入力の際、常に確認しながら入力作業を行った。まだ定着までいかない
- 活用方法がまだ解らず、定着する事が出来なかった

グループホーム

①個々のスタイルに合わせた生活支援を実践し、ケアプランに沿って充実した個別ケアを実現させる。

- 全体としては、個別の介助はできていたが、ケアプランに沿って、充実した個別ケアはできていなかった。記録も不十分であり、個々の問題点が何かを探る事ができていなかった。大まかなケアプランの把握はそれぞれできていたが、アセスメントまでたどり着かなかった

②職員全員が、責任感を持ち、人任せにしない仕事のスタイルを実現する

- ほとんどの職員が、自身の仕事に対する責任感を持つことができていた。ただ、細かな気配りが抜けていたこともあり。一度周りを見渡しなが作業ができていれば良いと感じました

③笑顔で何事にも積極的に取り組み、マイナス思考を伝染させない

- ほとんどの職員が笑顔で利用者に接する事ができていたと思うが、職員によっては、ゆとりがなく笑顔を忘れてしまう事もあり、焦りながら業務を行ってしまった事もありました

グループホーム式番館

①チームケアとは何かをより理解を深めながら、チームケアを実践するとともに職員各々が思いやりを持って入居者に接する

②職員のペースに合わせず、入居者個々の生活歴を知りそのペースに合わせたケアを徹底する。

③ケアプランと結びついた記録を行い、それに基づく PDCA サイクルを回していく。

ひびきフロア

- もっと申し送りノートなど活用できればよかった
- 言葉使いが荒くなる時があった
- 職員のペースになっていることが多く見られた

みやびフロア

- 認知症という固定観念で接するのではなく一人の人間として関わることも大切だと思った
- 職員間の申し送りは出来ていたが、もう少し利用者に踏み込んだ、ケアが出来たら良かった。
- その人の過去や生活歴についてもっと情報収集しその人に会ったケアが出来れば良かった
- 人によってやり方や教え方が違い戸惑うことがあった

- チーム内でお互いに話し合える関係性の構築が必要だと思った

小規模多機能

- ①ケアプランを意識し、毎日の様子を確認してケアを行い正確で無駄のない記録に残す
- ②利用者様一人一人に合ったケアの統一を行う
- ③全員が正確な感染対策・緊急時の対応を行う
 - 毎日の様子はミーティング・昼の申し送り・記録にて共有は出来ているがケアプランを確認したうえでのケアが出来ていない
 - 無駄のない記録になるよう、記録を確認し注意しあい、簡潔で分かりやすい記録になる様に各自心掛けた
 - 日々利用者様が変化していくなかでの統一したケアは難しいが、確認は出来ていた為、各自のケアに生かすことが出来た
 - コロナ禍で経験を生かした感染対策は出来ていた
 - 急な変化や救急時の対応はほぼ出来ていた。対応が分からない場合は看護師に相談や確認も出来ていた

デイサービス

- ①「介護過程と記録」の研修を活かしケアプランに沿った書き方で記録を残し、統一したケアに繋げる
 - ケアプランに対する評価を記録し、朝礼でも職員に伝える事によって統一したケアにつなげる事が出来た
 - 一か月ごとの評価もケアプランに沿って評価出来た
 - 利用者様全員の日々の記録は中々難しくできない事もあった
- ②職員同士の言葉使いに注意し、利用者様が気持ち良く過ごせるよう努める
 - 『です・ます』に注意し職員がお互いに注意できた
 - 意識して務めたが、100%ではない。利用者様全員の日々の記録は中々難しくできない事もあった
- ③お試し利用前にニーズを把握しその方に合ったサービスを提供することで、新規獲得をしていく
 - 事前の情報を読みその方に応じたお試し受け入れの準備が出来た
 - ホットパックやマッサージを提供し喜んで頂けた
 - 体調不良や入院を理由にご利用に繋がらない方もいらっしゃったが、お試しを体験された方は新規獲得出来た

看護部

- ①入居者様の日々の健康観察や健康管理に努め、病院との連携に努める
介護職と密に病状の情報を共有し、病院と連携して適切なケアと看護を行う
 - 入居者に対しては病院と連携し適切な看護を行うことができた。在宅の利用者の主治医に対しては家族を紹介することが多く連携が取れない事も多々あった
 - 看護日誌に申し送りを記載し、朝に申し送りの時間を設けたことにより情報共有や共通理解が高まった。グループラインなどを用い報告・連携がしやすくなった
- ②感染および褥瘡予防対策について、職員全体の知識と技術の習得に向けて実践的な研修会を開催する
 - 何回同じ研修を繰り返しても参加する職員によって理解力や記憶力、行動力が異なり、繰り返し研修を行う必要はある
- ③感染予防の観点から、環境委員会と協力して整理整頓など環境整備に取り組む
 - 環境委員と協力し事業所間で違っていた整頓の方法などを見直し統一することが出来た
- ④業務分担の明確化と効率化を図る
業務分担を行い、役割を明確にして業務の効率化を図る
 - 回診やその他の作業もこれまで一人で抱えていた作業を担当制にしたことにより効率化を図ることができた。引き続き業務改善を行い、効率化を進めていく必要はある

栄養部

- ①利用者様の状態や要望を把握し、多職種と連携を取りながら、最適な食支援を行う。
 - ミールラウンド時には介護士から、普段の様子を伺ったり、教えてもらったりと情報共有できている。食事変更などは、多職種で相談し、適切な食支援ができていていると思う。今後も継続してやっていきたい
- ②【報・連・相・確】の強化により、誤配膳や異物混入などの事故を防ぐ
 - 【報告・連絡・相談・確認】は全体的に意識が高まっていると感じている。皿の数などの細かいミスはあるものの、誤配膳の事故は今年度ゼロでした。禁止食や、食事変更の確認の声掛けが、お互いに出来る様になっている。
 - 異物混入の事故はゼロだったが、厨房内ではスポンジの破片が食事に混入するヒヤリが度々発生している。泡たて器やザルなどに付着していることがあるので、使用前や洗浄後に目視確認するよう、指導している。
- ③食中毒や感染症への対策を強化し、安心安全な食事の提供をする
 - 食中毒はゼロ。感染症はコロナ、インフルエンザに罹った職員がいたが、厨房

内に移すことはなかったので良かった。コロナ禍同様、食事は分かれて食べる、休憩中もマスク着用するなど努めている。また、プライベートでも、福祉施設勤務しているという自覚を持って、人混みに行く際には適宜マスクをするなど、個々で対策するよう声掛けしている

- 4月から栄養士の新入社員が入社する。それに伴って、職員のレベルの底上げに努めたい。接遇、調理、配膳、変更の対応など、新人、社員、パート関係なく、対応できるよう、教育していきたい
- 新しい皿（青）が、既存の皿より小さく、盛り付け量が多いと言われることがある。献立量を日々見直していく
- 嗜好調査の意見を参考に献立作成に努めている。利用者様のご意向に沿った献立をたてられるよう、これからも努めていく

事務

①朝礼や連絡ノートを活用し、情報の共有に努める

- 他部署との連携ができるように事務所の予定表やほのぼのを利用して情報共有することができた

②家族様や利用者様の顔とお名前を覚え、きめ細やかな対応に繋げる

- 面会も増えましたが、家族様に明るく丁寧な対応をすることができた

③文書保存一覧表に基づき保存期間の過ぎた書類の廃棄を進めていく

データで管理できるものなど紙を減らすことも検討していく

- 不要な紙を減らすなど書類の整理は心がけたが、保存期間の過ぎた書類の廃棄を進めることはできなかった

8. 入所・退所状況

特別養護老人ホーム入退所（定員29名）

区分		新規入所者				退所者					
		在宅	その他 (他施設から 転入等)	病院	計	家庭 復帰	医療機 関入院	他施設 へ転出	在籍入 院中に 死亡	看取り 死亡	計
年 度	月										
令和6年度	4		1	1	2		1			1	2
	5										
	6										
	7										
	8	1		1	2		2	1			3
	9	1	1		2		1			1	2
	10	1	1	1	3		1			1	2
	11										
	12										
	1			2	2		1			1	2
	2		1		1		1			1	2
	3	1	1	1	3				1	1	2
	計	4	5	6	15		7	1	1	6	15

グループホーム入退所（定員18名）

区分		新規入所者				退所者					
		在宅	その他 (他施設から 転入等)	病院	計	家庭 復帰	医療機 関入院	他施設 へ転出	在籍入 院中に 死亡	看取り 死亡	計
年 度	月										
令和6年度	4										
	5						1				1
	6			1	1						
	7										
	8		1		1		1				1
	9						1				1
	10		1	1	2		1				1
	11			1	1		1				1
	12			1	1		1				1
	1										
	2			1	1			1			1
	3			1	1			1			1
	計		2	6	8		6	2			8

グループホーム式番館入退所（定員18名）

区分		新 規 入 所 者				退 所 者					
		在宅	その他 (他施設から 転入等)	病院	計	家庭 復帰	医療機 関入院	他施設 へ転出	在籍入 院中に 死亡	看取り 死亡	計
令和6年度	4										
	5			2	2		2				2
	6						1				1
	7	1			1						
	8							1			1
	9		1	1	2				1		1
	10										
	11										
	12										
	1										
	2										
	3			1	1			1			1
	計	1	1	4	6		3	2	1		6

9. 事故発生状況（金沢市報告）

〔R6年4月1日 ～ R7年3月31日〕

部署	件数	内容	状況
特養	5	左肩、腕の外傷	臥床中であった氏が車椅子から転落し、左（麻痺側）を下にした状態で、床に倒れているところを発見する。頭のCT特に異常なし。肩、左腕に外傷、脱臼もなし。
		打撲	居室に入ってからすぐの床に、身体を左側を下にして倒れていた。移動の際バランスを崩し車椅子から転落されたと思われる。頭のCT特に異常なし。
		左大腿骨頸部骨折	独歩にてトイレに向かって歩いていく際に膝から転倒しそのまま床に横たわる。レントゲン検査の結果、左大腿骨頸部骨折の診断で入院となる。
		打撲	訪室すると、両下肢はベッド上にあり、腰から上半身にかけてベッド右側より転落しているところを発見する。頭を打っている可能性があり受診。頭部CTの結果、出血なし。左右上腕に痛みありレントゲンの結果、骨折なく打撲の診断で帰設する。
		右上腕部打撲	夜間居室内で右側臥位で転倒しているところを発見する。排泄に起きられ立位時ふらつきあり転倒した。頭部CTの結果、出血なし。右上腕に痛みありレントゲンの結果、骨折なく打撲の診断で帰設する。
ショートステイ	2	左頬擦過傷 左肩打撲	居室で左側臥位の状態で転倒しているところを発見。左頬の腫脹と皮下出血、左肩の痛みあり整形外科受診。CTの結果、異常なし。
		頸椎捻挫	送迎車の助手席に乗車され、退所送迎中、交差点で信号待ちで止まっていたところに後ろから追突される。痛み等なかったが念のため整形外科受診。レントゲン検査の結果、頸椎捻挫と診断され経過観察となる。その後異常なし。
小規模多機能	0		
デイサービス	0		
グループホーム	6	右第5肋骨骨折	フロアの自席床にて座り込んでいた。転倒時は外傷、痛みの訴えなく、四肢動作も問題なかった。2日後に胸痛訴え受診。CT検査の結果、右第5肋骨の骨折あり。バスタバンドでの固定と湿布を貼り施設にて経過観察となる。
		前額部打撲	夜間帯、居室内の洗面所前で頭を抱えて座り込んでいるところを発見する。トイレに行く際に洗面台に前額部を打ったとの事。時間経過と共に前額部に大きな血腫ができる。緊急搬送となり、CT検査行方が異常なし。経過観察の為入院となった。
		左顎打撲	トイレより大きな物音聞こえ訪室。トイレ内で便座に両手を置き立ち上がりようとしているところを発見する。時間経過と共に左顎に皮下出血見られ受診しCTの結果、異常は見られなかった。
		頭部擦過傷	居室の真ん中あたりで四つん這いになっていた。本人より、転んで頭を打ったとの報告あり。確認すると後頭部辺りから出血が見られる。止血施行。受診しCT検査・MR検査を施行、異常なしと診断される。
		右顔面打撲	夜間帯居室より声がし訪室すると、居室床に伏せた状態で倒れているところを発見する。転倒時、右目の腫れ、皮下出血あり。翌日の午前を受診し、レントゲン、MRI検査行う。異常は見られなかった為施設にかえて来られ経過観察行う。
		右顎打撲	夜間帯不穏状態強くフロアにて過ごしていた際に、車いすから転落された。右顎腫れあり当日中に受診しCT検査、レントゲン検査施行。結果、異常なく帰設する。
グループホーム 武番館	2	肺炎	居室でベッド柵に左腕が挟まり、抜けなくなっている状態で尻餅をついている氏を発見する。床に嘔吐あり。金沢有松病院受診する。腕は異常なし。嘔吐については肺炎との診断で抗生剤処方される。
		左頬骨折 左こめかみ切創	居間で自席からの立ち上がりにつらつき転倒。左顔面から床に倒れる。左こめかみ出血。金沢有松病院受診。左頬骨折。左こめかみ2針縫合。1週間の入院となる。

10. 救急車搬送状況

年度	月	件数	部署	状況
令和6年度	6	2	グループホーム①	転倒、頭部打撲
			グループホーム①	イレウス疑い
	7	1	特別養護老人ホーム	誤嚥性肺炎
	8	2	特別養護老人ホーム	誤嚥性肺炎
			グループホーム②	転倒、顔面打撲
	9	4	グループホーム②	SP02低下
			グループホーム①	SP02低下 血気胸
			特別養護老人ホーム	発熱、尿路感染
			特別養護老人ホーム	呼吸停止状態
	11	1	グループホーム①	心不全、肺炎
	2	3	特別養護老人ホーム	肺炎
			グループホーム②	肺炎、腸炎
			ショートステイ	脳梗塞
	3	2	特別養護老人ホーム	肺炎
			ショートステイ	心不全、肺炎
合計件数		15		

11. 職員の採用・退職の状況

[R6年4月1日 ～ R7年3月31日]

職種別		施設長	事務員	直接処遇職員						栄養士	宿直	合計
				生活相談員	介護職員	看護職員	機能訓練指導員	ケアマネ	小計			
令和6年度	採用				15 (8)	2 (1)		2 (1)	19 (10)			19 (10)
	退職	1			11 (3)	1 (1)		1	14 (4)		1 (1)	15 (5)
	3月末職員数	1	3 (1)	1	90 (31)	6 (2)	1	3 (2)	101 (35)	1	0	106 (36)

()はパート等非常勤人数

12. 施設職員の研修状況

〔R6年4月1日 ～ R7年3月31日〕

	回数（延べ人数）	
新人研修	1回（16名）	感染・褥瘡 事故防止 各部署の概要と活動 地域の社会資源 身体拘束排除・プライバシー保護 など
職場外研修	58回（77名）	石川県社会福祉協議会 福祉総合研修センター等の研修会・オンライン研修
職場内研修	7回（118名）	身体拘束廃止・虐待防止について 看取り介護
		事故防止について 緊急時対応 ハラスメント防止対策
		BCP業務継続計画に係る研修及び訓練（感染症）（自然災害）
		事業所発表（利用者様とその家族との関わり 認知症ケアについて）
外部講師研修会	12回（266名）	新人接遇・接遇フォローアップ研修 リーダー研修 主任研修
		介護過程と記録 褥瘡予防のためのポジショニング
		口腔衛生管理 地域の社会資源について